

雪化粧がすべてを白く彩る札幌の冬。そして、雪解けを迎える春。顔を出すのはフキノトウなど、春の息吹だけでしょうか。残念ながらそれだけではありません。冬の間ポイ捨てされたたばこの吸い殻や空き缶が、雪の中から顔を出しているのを目にし、不快な思いをしたことはありませんか？



あなたの行動がまちの景観を変える。



さらば、ポイ捨て！

春になって雪解けが進むと、道路や公園、空き地などあらゆる場所で見につくのポイ捨てされたごみ。捨てられているのは、たばこの吸い

んながやっているからと軽い気持ちで捨てたのでしょうか…。

一向に消える気配のないポイ捨てをなんとか無くそうと、いわゆる「ポイ捨て禁止条例」を制定する自治体もあります。全国の自治体の約三分の一が、こうした条例を制定し、公共の場所でのポイ捨てを取り締まるなど、何らかの規制をしています。でも、条例を制定するだけで、すぐにポイ捨てが無くなり、街が美しくなるというものではありません。最終的には個人とモラルの問題なのです。

東区内では、町内会や商店街、学校などが、ポイ捨て防止の啓発活動を展開したり、捨てられたごみの回収運動を行ったりするなど、さまざまなポイ捨て防止の取り組みを始めています。区でも、こうした団体と連携を図りながらポイ捨てのない街づくりを目指します。

「たばこは灰皿のあるところで」、「ごみは持ち帰るか、くずかごへ」。まず、ここから始めてみませんか。こんな簡単なことを守るだけで、ごみの無い美しい街で、みんなが気持ち良く暮らせるのですから。

殻、空き缶、ペットボトル、食料品の包装紙、雑誌、新聞などさまざまです。近くにごみ箱や灰皿がなかったからでしょうか、自分一人くらいなら平気だと思ったのでしょうか、み